

平成 26 年 度
事 業 報 告 書

社会福祉法人 慈愛園
児童養護施設 シオン園

2014 年度（平成 26 年度）事業報告

社会福祉法人 慈愛園

児童養護施設 シオン園

短期・中期・長期事業目標について

1. 小規模ケア化に伴い各ホームで生活日課の見直し・検討を行う事が出来た。
2. 各ホーム職員と心理職職員のコンサルテーションの中で連携が持てるようになった。
3. 地域に開かれたシオン園となるように中央区商工会の夏祭りへの参加や福祉公開講座を地域に場所を借りて行う事ができた。
4. 福祉公開講座を園内三事業主催で行う事が出来た。次年度はもう少し事前準備の話し合いをする必要がある。
5. 看護師の配置は実行できなかった。
6. 各ホームのパソコンと事務所のパソコンをランでつなぎ、共有ホルダーを作ったり、養護日誌をリアルタイムで見れるようにすることが出来た。
7. 被虐待児童、軽度発達障がい児童への対応を適切に行うための研修を現在も積み重ねている。
8. 児童養護施設小規模化の方向性に対応して、本体施設の小規模化を行い、熊本県に報告した内容に基づいて実施している。
9. 第三者評価の受診結果を受けて、毎月の職員会議において少しずつ協議し改善を行っている。
10. 自立支援計画の策定に関して、子どもの意見をもっと取り入れるように努力の必要がある。
11. 平成 27 年度の事業計画策定に当たって児童指導員と保育士の合同が実行できた。
12. 職員一人一人に必要な研修課題を設定するため一人ひとりの研修履歴を参考にして平成 27 年度の研修計画に反映することができた。
13. ボーイスカウト活動は平成 26 年度を振り返り、ボーイ隊の活動のみ数年間は行う事とした。
14. 施設内に小規模化委員会を設置し、月に一回話し合いを行い、具体化への方法を話し合っている。
15. 職員の人間性を磨くための研修として、聖書研究を実行している。これを続けていき少しずつ職員の心の成長を図りたい。また、創設者モード・パウラス女史の事を語り続ける事によって、シオン園がなぜ存在するのか考え直すようにしたい。
16. 里親支援は里親支援専門相談員を中心に行っているが、施設としては里親支援専門相談員の動きを支援し、協力できる事は協力するという姿勢が出来た。

17. 一年間の準備が功を奏し、平成 27 年度から基幹的職員を配置することが出来た。
18. 全ホームに管理宿直専門員を配置することができた。

全体的に振り返ってみて、職員の研修に向かう真剣さが増し、「子どもの最善の利益」の追求に向け一步前進できたように感じている。今後も研修に対して前向きに取り組み、職員の自信が増すように努力します。

Ⅱ 児童指導員部門

- ① 日々の生活に関しましては、各自、各ホームにおいてリズムよく生活を送る事が出来ました。また月 1 回のフリーデーと毎週の日曜日の自由時間も定着し、個々人が有効的に自主的な活動に取り組むことに繋がったと思われます。
 - ② 学校関係に関しましては、小学校、中学校、特別支援学校と連絡協議会を先生方と工夫しながらより充実した形で定例実施する事ができ、入所児童への理解に大いにつながったと思われます。それから虐待のトラウマ症状や発達障がいなどの問題を抱える児童に関しましては、担当 CW 毎に連携をとり個別的な配慮が出来ました。次年度も更なる関係機関を交えた連携の強化を図りたいと思ひます。
 - ③ 学習指導（受験）に関しましては、主として通塾を利用する事により、より個別のニーズに応じた学習支援を展開する事が出来き、中学 3 年生が全員高校に進学する事ができ非常によかったです。
 - ④ 入所児童の意見表明件に関しては、次年度に引き続き、生活の中での児童との話し合いを持つことを基本としながら、意見箱また子ども会の場において保障することができました。次年度も更に引き続き行っていきたいです。
 - ⑤ 食育支援に関しましては、継続で重点項目として取り組んできました。特に中学生調理に関しましては、栄養士、調理職員、また CW とのしっかりとした連携によりその中身も更に充実さを増していると思われます。また食育講和も実施する事がよかったと思われます。次年度も継続実施していきたくて考えています。
 - ⑥ 自立支援計画書の作成に関しましては、児童相談所の援助指針また意見交換の場を年に 3 回持たせていただき、その中身も現場に即した実践的なものでした。今後も更なる利用者主体、子どもの権利を大事にする自立支援計画書の作成の充実に努めていきたいです。
 - ⑦ 職員研修に関しましては、月毎の園内研修の充実、更に養護協議会による指導員研修会を主体に、ブロック研修などの様々な参加を通じて各自スキルアップを行いました。更には職員の相互の自発的な施設内研修も行う事が出来ました。
- 次年度も入所児童の現状に即した支援ができる様在中でも虐待・愛着に関して重点的

に自主研修を含めて取り組んでいきます。

- ⑧ 次年度の課題としては、具体的な小規模化に向けての他の職域との連携や専門性の向上等を視野に入れた事業計画の作成と実践を心がけることが必要であると考えます。同時に今年度より更なる職種幅を超えた事業計画の提示を行っていきます。

以上の反省に鑑み、来年に向けた更なる充実を願い、今後における取り組みを考えていきますので、引き続き指導員部門へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

Ⅲ 里親支援専門相談員部門

(1) 地域への周知、啓発

1. 市町行政、学校関係者への周知、啓発については、各市町子育て担当課のご理解のもと、教育委員会関係者との連携、一つの地域においては小中学校校長会での制度説明が実施できている。
2. 里親出前講座については、希望があった際の開講を想定していたが、待つだけの需要がなく、平成 26 年度においては行政へのアプローチを通して要対協での実務者・代表者の研修会において、県・市共催の里親講演会で興味を持たれた障害者福祉施設において実施をしている。

(2) 里親の新規開拓、里親登録希望者への支援

1. 里親制度説明会を今年度より里親講座として、里親制度の説明だけでなく、社会的養護についても加えて話をしている。平成 26 年度は玉名市・荒尾市・宇城市の 3 市で開催。里親講座以外にも宇城市、荒尾市、宇土市から提案をいただき、市主催の行事での場を提供していただきパネル展示による周知を実施している。
2. 施設実習については、児童相談所より依頼のあったところでの日程調整、受け入れを実施している。ボランティアに関しては、登録を希望する里親に対して、ボランティア里親への登録を検討、協議を行っている。

(3) 未委託里親への支援

家庭生活体験事業は、夏季 1 組、冬季 2 組実施。

(4) 里親への支援

1. 定期家庭訪問を実施。また、緊急の対応が必要なケースにおいても児童相談所担当ワーカーとの連携のもと訪問、対応を行っている。また電話やメール等も利用して養育に関する具体的な助言を行っている。
2. 里親サロンに関しては、委託されている子どもの困り感からの必要性と、里親家庭訪問であった要望から、社会的養護の中にあつた当事者の方から「当事者の声『そのときの気持ち』』というテーマで実施をした。委託される前であつて

も虐待など辛かったばかりでなく、楽しかったことや大切にしていたことがあったことを話してもらい、育ちの一貫性に関して話してもらおう。

3. レスパイトケアに関しては児童相談所からの依頼はなし。

(5) 研修への参加

平成 26 年度においても多くの研修に参加をさせていただいた。また自主研修においても里親支援の分野にとらわれず、他分野の方より多くの学びやつながりを持てたことを感じる。来年度も引き続き学びを行っていききたい。

IV 保育士部門

1. 事業内容について

(1) 支援

自立支援計画に基づく個別的支援により、子ども一人一人の年齢に応じた自立に向けて取り組んできた。また、意見箱の活用により子どもたちの意見表明の場が設けられ、それを生活改善に生かすよう心がけることができた。権利擁護の観点から、次年度も子どもたちが自らの意見を表明し自主的な考えをもって活動できるよう支援を行うことを心がけていきたい。

健康管理においては、栄養士による意見を参考に食育に力を入れ、健康な体作りをめざしてきた。給食委員会へは子どもの要望等を積極的に取り入れてもらったことはよかった。また、感染症対策の研修への参加、予防接種、各自の体調面での情報の共有、それに基づく、予防の実践、及び罹患した時の迅速な対応での感染の拡大、重篤な症状に陥ることはなかった。今後も引き続き感染症に対しては常に危機感を持ち研修への参加、適切な処置を行っていききたい。

中高生の進路決定に際しては、子どもの意見を尊重し、地域へのサポートへつなげることができた。

(2) ホーム運営・管理の充実

ホーム内の備品の管理と設備の点検は定期的に行うことができた、また、ホーム外の危険箇所を子どもたちの動向に目を向けながら把握するよう心がけている。幸い、自己なく過ごしているが引き続き強化していく。

(3) 職員、及び関係機関との連携

職員間の連携ということで、指導員、心理士及び家庭支援専門相談員と各ホーム月 1

回のコンサルテーションの実施を定例化し、現状の把握と、生活の場での心理的側面からのアプローチのあり方、及び家族との関係調整を検討、実践に生かすよう努めてきたが、日程調整が上手く行かずに各ホーム十分にできなかった点、また、アセスメントを有効に生かすという点では職員間に格差があり今後の課題であると思われる。次年度は、各部門の役割を十分に認識し、それぞれが効率的に活動し、組織力を高める必要がある。また、子どもの家族にニーズという視点から、対応に苦慮することが多くなっている中、今度は家族への対応マニュアルも検討していく必要があると痛感した。また家族復帰ケースも増えアフターケアを実践するにあたっては関係機関の協力は不可欠である。こうした事を考慮して担当職員は、FSW と連携し調整に当たり効率的に家族調整を図る必要がある。

学校関係では、小学校、中学校、支援学校との連絡協議会も定例化し、相互の共通理解と連携を図ることで出来つつあるが、教育と福祉という場での価値観の違いからか、子どもたちの現状を理解してもらうことに苦慮した現状にある。子どもの最善の利益を追求する立場にある我々が教育に携わる人たちへの理解を得るためにも我々自身が知識を得て啓発していかなければならないと痛感した。このことを踏まえて、職員一人一人の力を付けることは必須であるので今後も研修会、勉強会への積極的な参加を勧めていきたい。

(4) 保育士会の連携、及び学習会について

前述の通り、多様化する利用者のニーズに対応するためにも職員の質の向上は不可欠である事から、施設内外の研修会への参加を心がけているが、今年度は、多種多様の施設内研修、対外的な研修に参加することができた。特に、若い世代の職員のモチベーションが上がり意欲的な活動が出来ていたと思われる。今後も継続していき、職員一人一人の資質向上を目指していく。また、保育士会としての活動はなかったので次年度は定期的な学習会交流会等を行っていきたい。

(5) 園内クラブの充実

手芸、生け花、折り紙のボランティアによる指導が行われており、特に、生け花、折り紙においては月 1 回定例化しており、子ども達の情操教育の場となっており、子ども達も積極的に参加している。次年度も継続事業として保育士会として協力を行っていく。

V 栄養・調理部門事業報告

1 目標

- ・ 子ども達の安定した生活と心身の健全な成長のため、おいしく安全で栄養ある食事・食卓作りをする。
- ・ 子ども達が現在をいきいきと生き、かつ生涯にわたって健康で幸せな生活を送るため食を営む力を育てるとともに、それを支援する環境づくりを進める。(食育)

2 報告

目標を軸に業務をいたしました。誕生日のリクエストメニュー、メッセージカードは継続していきたいと考えています。

継続業務

(1) 栄養管理

- ・ 個別対応での栄養管理（体格、運動量、体質などを考慮に入れ対応した。）
- ・ 食事摂取基準を活用し、食事計画を立てた。
- ・ 食事の摂取量、残食量の把握については、ホーム担当の先生からの情報や検食簿での把握。

(2) 食事の準備、運営

①食事の準備

- ・ 子ども達嗜好や意見、季節感に留意して献立を作成した。
- ・ できるだけ国産、熊本県産に留意し、安価で新鮮な材料の使用に努めた。
- ・ 調理室、ホームの台所の衛生管理に努め、味付けやビタミンの損失に留意した。
- ・ 適時適温に留意し、ホームでの食事時も、冷蔵庫での保存または食べる前の温め直しなどをお願いした。
- ・ アレルギーの子どもへは、代替食品などを使い対応した。また、病中病後、欠席時の子ども達への食事を、その病状等に合わせて提供した。
- ・ 年一回、個別の嗜好調査を実施し、その集計結果を発表し、食事に反映させた。

②給食・献立委員会の活動：別紙

月1回（長期休暇等を除く）、給食委員会を実施した。給食委員会では子ども達に関する情報の共有を図り、ホーム内での困っていることなどについて話し合い、その結果を職員会議で全職員に知らせた。また、給食委員会内で解決が難しいと思われる検討事項については、職員会議内で議題に上げ、全職員で検討した。子ども達には、文書で発表した。

③入所時のウェルカム食や、ホーム活動の支援、お弁当作りなど、ホームからの食に関する依頼に対応した。

④調理担当者（調理職員・ホーム担当職員）の検便を毎月実施した。

⑤調理室（食堂）を清潔に保つよう、調理器具、グリストラップ等を定期的な清掃に努めた。 **※グリストラップ：10月8日業者による清掃の実施**

⑥非常時の備え（危機管理）

- ・ 2日分の非常食の備蓄（消費期限の確認・入れ替え等）、献立の準備、3社との委託契約の継続。食中毒発生時の対応マニュアル等の掲示。

(3) 食育の推進：最終目標「楽しく食べる子どもに」

- ・ 高校生調理実習：調理体験、自立支援を目的に実施した（月1～2回）
- ・ 子ども達に正しい食に関する情報提供をした（栄養だより、献立表のメモ）
- ・ メニュー決定への子ども達の参加（アンケート、聴取）
- ・ お箸知育教室、もちつき、卒園生へのレストランでのテーブルマナー講習会等の実施。
- ・ 卒業生（中学校）に、レシピ集をプレゼントした。
- ・ 卒園生に、給食担当者部会で作成した食生活自立支援冊子「ひとりでできるモン！」をプレゼントした。

(4) ホームページにおける情報の公開と発信

- ・ 子ども達と行った梅干し作りの様子、箸作りの様子を公開した。

※今後の課題：食事の内容や様子、食に関する情報等を定期的に更新するように努める。

(5) 地域への貢献

- ・ 今年度は地域の方から協力依頼はなかったが、今後も地域貢献に努める。
- ・ ひとり暮らし世帯へのおせちの宅配は、今年度は職員不足のため中止させていただいた。来年度以降については検討する。

(6) 職員研修

- ・ 日々研修を重ね、給食サービスの向上を図った。
- ・ メニュー、衛生管理、食べ方など給食委員会で検討した。

その他

- ・ 誕生日に、職員からのメッセージカードを作成しプレゼントした。
- ・ 卒園生に、成長曲線を作成し贈ることができた。

新規業務

- ・ ホームで使う、子ども達の食器等は、ホーム担当職員と子ども達が好みの物を個別に購入したり、買い替えをされている。
- ・ 今年度、塩分濃度計の購入をしていないので、味の調整のためにも、来年度初めに、購入したい。
- ・ 誕生日に子どものリクエストメニューを夕食に取り入れ、好きなケーキを誕生日ケーキとして購入した。
- ・ ホーム職員の調理実習については、実施していない

VI 心理士部門

1 目標

- (1) 子どもの安心感、安全感の再形成、自己肯定感の向上を図る。
- (2) 子どもの適切な対人関係の形成を図る。

2 事業内容

(1) アセスメントの実施

バウムテスト、知能検査、SCT（必要に応じて検査を変更）を実施し、生活場面、心理療法場面での行動を踏まえ、見立てを立てる。見立てを基に、心理療法の方針を決定したり、ケア・ワーカーへのコンサルテーションを実施したりする。

(2) 個人心理療法の実施

継続的な心理療法の場を提供し、無条件の肯定的配慮、共感的理解、自己一致といった臨床的態度の下に、子どもの安心感、安全感を培っていく。また、子どもの表現を受け入れ、子どもの主体性、自己肯定感の促進を目指す。

(3) 集団心理療法の実施（キッズ・ケア・センターとの共同事業）

他者との関係構築が苦手な子ども（トラブルが多い、集団のペースに合わせられない、自己主張が苦手など）を対象に、「居場所」としての場、自己肯定感向上の場、ソーシャルスキル獲得の場を提供する。実施に際しては、集団心理療法の目標を明確にし、参加する子どもに参加目標への理解を促す。

(4) 記録の充実と振り返り

子どもへの効果的な支援を検討するために、心理検査及び心理療法実施後の記録を充実させる。記録を定期的に振り返ることで、その時点での子どものアセスメントを行い、支援方針をその都度見返していくようにする。

(5) ケース会議、支援方針会議への参加

必要に応じて、面接経過、見立てと方針等について情報を提供する。他職種から提供された情報と心理学的見解を基に、自らの実践活動を省みながら、ケースに関する理解を深め、より効果的な支援について検討していく。また、会議によって検討された課題について、心理療法の中でのアプローチ出来るものがあればアプローチするように努める。

(6) 他職種との連携

① 情報の共有化

子どもの生活場面での様子、心理療法場面での様子について、情報の共有化を図ることで、子どもを多角的に捉え、連続性のある支援を実施できるようにする。

② コンサルテーションの実施

実施した心理検査や心理療法から推測される子どもの特性、心的状態について、

ケア・ワーカーへフィードバックを行ない、生活場面での様子を踏まえながら、支援について検討する。また、ケース会議、支援方針会議の中で提案された支援方法について再検討する場として活用する。

(7) 児童相談所、医療機関、学校等の他機関との連携

必要に応じて、他機関に対し、子どもの抱える課題について、倫理的視点から情報提供を行い、支援方法について検討する。また、他機関から心理検査の実施を求められれば、心理検査を実施し、検査結果について情報提供を行う。医療機関受診を必要とする子どもについては、受診する医療機関に対し、心理検査結果、面接経過、医療機関受診の経緯等を文書化し、提出する。

(8) 専門性の向上

積極的に様々な研修会に参加し、心理学（特に児童分野）における知識と技術の向上を目指し、自己研鑽に努める。

VII 事務部門（事業報告）

新園舎建築に伴い、年間約 350 万円の借入金返済、人件費等の支出のため、厳しい状況が続いておりましたが、各職員の協力のもと、平成 26 年度では黒字決算となりました。引き続き、質を落とすことが無いよう留意しながら、経費削減に努めてまいります。

【結果】

(1) 情報機器等の耐用年数超過による買換え

・・・各部署にて一部買換えを行った。

(2) 合理的な人件費支出の模索

・・・計画的に執行できた。今後も要検討。

(3) 毎月に試算表に関し、年度予算対比への反映強化

・・・だいたい行えていたが、一部不意な支出が見られたので、次年度も継続していく。

(4) 労働基準監督署の指示に従い、提出書類の適正化を図る

・・・適正化を図ることができた。次年度も継続。

VIII 荒尾中央学童クラブ

平成26年度 活動報告書

月 項目	4月	5月	6月
目 標	1年生・・・新しい環境に早く慣れることを中心に安心して登園できるよう配慮する (名前入りビブスの着用・学校へのお迎え等を実施) 2年生以上・・・進級した自覚を持たせ、新1年生との交流をはかる		
行 事	新入生受入 歓迎観劇会 お花見会 誕生日会 授業参観視察 1年生下校引率	誕生日会 運動会視察	誕生日会
保護者会	1年生個人面談		
遊 び	外遊びを中心に、集団スポーツを通して、仲間作りや互いの交流をはかった(サッカー・おにごっこ等) 学校ごっこ・お店屋さんごっこ等で、上級生との交流をはかった(主に女子)		
製 作	入会記念制作	母の日プレゼント	父の日プレゼント
学 習	宿題タイム 土曜学習会	宿題タイム 土曜学習会	宿題タイム 土曜学習会
文化活動	読み聞かせ 福祉村感謝祭 学童お便り配布	読み聞かせ 学童お便り配布	読み聞かせ 学童お便り配布 作法教室 万田坑談参加
生活活動	土曜食育教室 清掃活動 地域清掃活動 基本的な生活習慣の定着	土曜食育教室 清掃活動 地域清掃活動	土曜食育教室 清掃活動

月 項目	7月	8月	9月	10月	11月
目 標	夏休み補行事を通して、協調性・リーダーシップなどを育てることに努めた。		夏休みの疲労を取り、落ち着きのある生活に戻す	後期の授業の開始とともに、生活しやすい気候の中で、体力や気力の充実に向けるよう配慮する	
行 事	連絡協議会会議 授業参観視察 クワガタびー参加 夏期保育	夏季保育 お楽しみ会	連絡協議会会議 授業参観視察	秋期保育 授業参観視察	
保護者会					
遊 び	夏休み中は、プールに出向き、水へ親しむことや異年齢の子ども達と仲良くできるよう努めた 脱水症状に注意し、水分補給や休憩時間を多くするなど心掛けた。		活動しやすい季節に入るため、子どもたちの行動範囲の広がりに伴う 事故や怪我の発生を防ぐよう配慮した (樹木の伐採等)		
製 作	七夕飾り作り	1.2先生女子 手芸 紙飛行機大会	ウツマグネット作り	どんぐり駒作り	ハウインオナメント
学 習	宿題タイム 土曜学習会	宿題タイム 土曜学習会 英語で遊ぼう	宿題タイム 土曜学習会	宿題タイム 土曜学習会	宿題タイム 土曜学習会
文化活動	読み聞かせ 絵手紙制作	読み聞かせ 筑前琵琶	読み聞かせ 花の植替え (13日)	読み聞かせ	読み聞かせ ペットボトルを使ったピザ教室参加
生活活動	土曜食育教室 清掃活動	土曜食育教室 清掃活動	土曜食育教室 清掃活動 地域清掃活動	土曜食育教室 清掃活動 地域清掃活動	土曜食育教室 清掃活動 地域清掃活動

月 項目	12月	1月	2月	3月
目 標	風邪などの流行に留意し、手洗い等の励行に努めた 次年度の進級に備え、生活面、精神面の成長を意識させ、 新1年生の受け入れを順調なものにできるよう努める。		新入生の受け入れを 前に、上級生としての 態度等の見直しをは かり、下級生の手本と なる意識を高める	
行 事	冬期保育 餅つき ラグビー参加	冬期保育		退会記念品贈呈 卒業記念品贈呈 春期保育 ラグビー参加
保護者会				個人面談
遊 び	ラグビーや屋外の遊びに積極的に取り組み事で冬場の体 力作りに努めた		外遊び時間が長くな るに従い、事故や怪我 の防止に努めた	
製 作	クリスマスカード作り	簡単駒作り	ひな祭り工作	
学 習	宿題タイム 土曜学習会	宿題タイム 土曜学習会	宿題タイム 土曜学習会	宿題タイム 土曜学習会
文化活動	読み聞かせ 荒尾高校ラグビー 一部 全国大会応援メッ セージ カードプレゼント	読み聞かせ	読み聞かせ	読み聞かせ
生活活動	土曜食育教室 清掃活動 地域清掃活動	土曜食育教室 清掃活動 地域清掃活動 お弁当作る会	土曜食育教室 清掃活動 地域清掃活動	土曜食育教室 清掃活動

IX キッズケアセンター

1 事業等実施状況

(1) グループワーク・集団指導

日 程	事業名、内容等	出席者 (人数)
5月17日 (土)	【事業名】	【こども】
6月13日 (土)	集団心理療法 (すくすくグループ)	3名
7月19日 (土)	【内容】	【スタッフ】
9月20日 (土)	言語面、ソーシャルスキルの乏しさを抱えている	2名
11月8日 (土)	児童を対象にカードを使った言葉の学習、ルール性	※本体施設と合同事業
1月17日 (土)	のある遊び、ロールプレイを使ったソーシャルスキ	
2月14日 (土)	ルトレーニング、読み聞かせなど50分の枠で実施。	
3月21日 (土)		
【日程】	【事業名】	【こども】
5月31日 (土)	集団心理療法 (お話グループ)	1名
6月28日 (土)	【内容】	【スタッフ】
7月19日 (土)	コミュニケーションスキル不足や自己表現できな	2名
9月27日 (土)	い児童を対象にゲームやロールプレイを通して、自	※本体施設と合同事業
11月29日 (土)	己表現を促し、コミュニケーションスキルの獲得を	
1月31日 (土)	目指して1時間の枠で実施。	
【日程】	【事業名】	【こども】
5月17日 (土)	集団心理療法 (ふれあいグループ)	2名
6月28日 (土)	【内容】	【スタッフ】
7月19日 (土)	ソーシャルスキルの乏しさを抱え、集団の中で適	2名
9月27日 (土)	切に自己主張することが苦手な児童を対象にルール	※本体施設と合同事業
11月29日 (土)	性のある遊びやソーシャルスキルトレーニングなど	
1月31日 (土)	を50分枠で実施。	
【日程】	【事業名】	【こども】
5月17日 (土)	集団心理療法 (ひだまりグループ)	2名
6月21日 (土)	【内容】	【スタッフ】
7月26日 (土)	言語面、ソーシャルスキルの乏しさを抱え集団生	2名
8月30日 (土)	活に適する事に難しさを抱えている児童を対象にル	※本体施設と合同事業
9月20日 (土)	ール性のある遊び、作品作り、ソーシャルスキルト	
11月1日 (土)	レーニングなど50分の枠で実施。	
1月24日 (土)		
2月14日 (土)		
3月21日 (土)		

【日程】 5月31日（土） 6月21日（土） 8月20日（水） 11月29日（土）	【事業名】 集団心理療法（さくらんぼグループ） 【内容】 感情表現、ソーシャルスキルの乏しさを抱え、集団の中で適切に自己主張する事が苦手な児童を対象に感情分類ワーク、ルール性のある遊び、ソーシャルスキルトレーニングなどを50分の枠で実施。	【こども】 2名 【スタッフ】 2名 ※本体施設と合同事業
--	--	---

(2) 地域支援事業・子育て支援事業

日 程	事業名、内容等	出席者（人数）
4月18日（金）	荒尾市障がい者自立支援懇談会子ども部会	計12名
5月9日（金）	荒尾市障がい者自立支援懇談会子ども部会	計12名
6月13日（金）	荒尾市障がい者自立支援懇談会子ども部会	計12名
7月11日（金）	荒尾市障がい者自立支援懇談会子ども部会	計12名
11月14日（金）	荒尾市障がい者自立支援懇談会子ども部会	計12名
5月15日（木）	荒尾市心の教室相談員等連絡会議	計15名
6月10日（火）	荒尾市心の教室相談員等連絡会議	計15名
9月2日（火）	荒尾市心の教室相談員等連絡会議	計15名
1月29日（木）	荒尾市心の教室相談員等連絡会議	計15名
3月25日（水）	荒尾市心の教室相談員等連絡会議	計15名
6月18日（水）	学校におけるいじめ防止対策委員会	計10名
3月20日（金）	学校におけるいじめ防止対策委員会	計10名
9月11日（木）	有明圏域障がい者自立支援協議会子ども部会	計30名
10月9日（木）	荒尾市虐待防止対策地域協議会実務者会議	計30名
2月27日（金）	荒尾市虐待防止対策地域協議会代表者会議	計30名
11月6日（木）	荒尾市学校保健会保健主事研修会	計25名
12月5日（月）	菊水中央小学校 PTA主催子育て講演 講師	計30名

(3) 他機関との連携（会議等）

日 程	事業名、内容等	出席者（人数）
4月2日（水）	玉陵中学校 個別ケース検討会議	保護者1名 教委1名 SSW 学校4名 本所2名 計9名
12月16日（火）	玉陵中学校 個別ケースカンファレンス	学校4名 本所2名 計6名
2月10日（火）	玉陵中学校 個別ケースカンファレンス	学校4名 教委1名 本所1名 計6名
	玉陵中学校 個別ケース検討会議	保護者2名 学校5名 教委

3月26日 (木)	緑ヶ丘小学校 個別ケース検討会議	本所1名 保護者2名 学校3名	計9名 本所1名 計6名
4月3日 (木)			
4月14日 (月)	緑ヶ丘小学校 個別ケース検討会議	保護者1名 学校3名	本所1名 計5名
5月13日 (火)	緑ヶ丘小学校 個別ケース検討会議 緑ヶ丘小学校 個別ケース検討会議	保護者1名 学校4名 保護者1名 学校2名	計5名 本所1名 計4名
7月24日 (木)	緑ヶ丘小学校 個別ケース検討会議	保護者2名 学校2名	本所1名 計5名
8月25日 (月)	緑ヶ丘小学校 個別ケース検討会議	保護者2名 学校3名	本所2名 計7名
10月3日 (金)			
12月5日 (金)	緑ヶ丘小学校 個別ケースカンファレンス 緑ヶ丘小学校 個別ケースカンファレンス	学校2名 本所1名 学校2名 本所2名	計3名 計4名
12月17日 (水)	緑ヶ丘小学校 個別ケースカンファレンス 緑ヶ丘小学校 個別ケース検討会議	学校1名 本所1名 保護者2名 学校4名	計2名 本所1名 計7名
1月29日 (木)	緑ヶ丘小学校 個別ケース検討会議	保護者2名 学校2名	本所1名 計5名
2月27日 (金)			
3月19日 (木)	荒尾市福祉課 個別ケースカンファレンス	福祉課4名 本所1名	計5名
4月15日 (火)	荒尾市福祉課 個別ケースカンファレンス	福祉課2名 本所1名	計3名
10月9日 (木)	荒尾市福祉課 個別ケースカンファレンス 荒尾市福祉課 個別ケースカンファレンス	福祉課 児相 本所2名 福祉課 本所2名	計4名 計3名
12月8日 (月)	荒尾市福祉課 個別ケースカンファレンス 玉名小学校 個別ケースカンファレンス	福祉課3名 本所2名 学校3名 本所2名	計5名 計5名
12月8日 (月)	荒尾第一小学校 個別ケース検討会議	保護者1名 学校4名	計5名
3月13日 (金)	荒尾第一小学校 個別ケースカンファレンス	学校3名 本所2名	計5名
4月25日 (金)	荒尾第一小学校 個別ケース検討会議	保護者2名 学校4名	本所2名 計8名
4月25日 (金)			
4月30日 (水)	荒尾第一小学校 個別ケースカンファレンス	学校4名 本所1名	計5名
5月2日 (金)	荒尾第一小学校 個別ケース検討会議	保護者2名 学校5名	本所2名 計9名
5月20日 (火)			
7月4日 (金)	荒尾第一小学校 個別ケースカンファレンス	学校3名 本所1名	計4名
7月7日 (月)	荒尾第一小学校 個別ケース検討会議	保護者1名 学校2名	本所2名 計4名
7月22日 (火)	荒尾第一小学校 個別ケース検討会議	保護者1名 学校1名	本所1名 計3名
8月1日 (金)	荒尾第一小学校 個別ケースカンファレンス	学校1名 本所1名	計2名
9月19日 (金)	荒尾第一小学校 個別ケースカンファレンス	学校3名 本所2名	計5名
10月21日 (火)	荒尾第一小学校 個別ケース検討会議	保護者1名 学校3名	本所1名 計5名
10月21日 (火)	荒尾第一小学校 個別ケースカンファレンス 荒尾第一小学校 個別ケースカンファレンス	学校2名 本所1名 学校3名 本所1名	計3名 計4名

10月22日 (水)	荒尾第一小学校個別ケースカンファレンス	学校3名 本所1名	計4名
11月18日 (火)	荒尾第一小学校個別ケースカンファレンス	学校2名 本所2名	計4名
11月18日 (火)	荒尾第一小学校個別ケース検討会議	保護者1名 学校3名 本所2名	計6名
12月2日 (火)	荒尾第一小学校個別ケースカンファレンス	学校2名 本所1名	計3名
12月12日 (金)	荒尾第一小学校個別ケースカンファレンス	学校2名 本所1名	計3名
12月12日 (金)	荒尾第一小学校個別ケース検討会議	保護者2名 学校2名 本所1名	計5名
12月12日 (金)	荒尾第一小学校個別ケース検討会議	保護者2名 学校2名 本所1名	計5名
12月17日 (水)	荒尾第一小学校個別ケースカンファレンス	学校3名 本所2名	計5名
2月4日 (水)	荒尾第一小学校個別ケースカンファレンス	学校3名 本所1名	計4名
3月3日 (火)	荒尾第一小学校個別ケースカンファレンス	学校3名 本所1名	計4名
3月10日 (火)	荒尾第一小学校 個別ケース検討会議	保護者1名 学校2名 本所1名	計4名
3月10日 (火)	荒尾第三中学校個別ケースカンファレンス	学校3名 本所1名	計4名
3月25日 (水)	荒尾第三中学校個別ケースカンファレンス	学校3名 本所2名	計5名
5月9日 (金)	荒尾第三中学校個別ケースカンファレンス	学校4名 本所1名	計5名
6月27日 (金)	荒尾第三中学校個別ケース検討会議	保護者1名 学校4名 本所1名	計6名
7月29日 (火)	荒尾第三中学校個別ケースカンファレンス	学校5名 本所2名	計7名
8月18日 (月)	荒尾第三中学校 個別ケース検討会議	保護者1名 学校5名 本所1名	SSW 計8名
11月4日 (火)	大野小学校 個別ケースカンファレンス	学校5名 本所2名	計7名
3月27日 (金)	大野小学校 個別ケースカンファレンス	学校4名 本所2名	計6名
5月21日 (水)	横島小学校 個別ケース検討会議	保護者1名 学校2名 本所1名	計4名
1月21日 (水)	南関中学校 個別ケースカンファレンス	学校1名 本所2名	計3名
6月9日 (月)	荒尾第四中学校個別ケースカンファレンス	学校4名 本所2名	計6名
6月17日 (火)	荒尾第四中学校個別ケース検討会議	保護者2名 学校5名 本所1名	計8名
6月17日 (火)	荒尾第四中学校個別ケース検討会議	保護者1名 学校4名 本所2名	計7名
7月25日 (金)	荒尾第四中学校個別ケース検討会議	保護者1名 学校1名 本所1名	計3名
10月24日 (金)	荒尾第四中学校個別ケース検討会議	保護者1名 学校4名 本所1名	計6名
12月5日 (金)	岱明中学校 個別ケースカンファレンス	学校5名 SC SSW 本所1名	計8名
12月18日 (木)	岱明中学校 個別ケース検討会議	保護者1名 学校4名 本所1名	計6名

6月20日 (金)	岱明中学校 個別ケースカンファレンス	学校5名 本所1名 計6名
8月21日 (木)	玉名町小学校 個別ケースカンファレンス	学校2名 本所2名 計4名
2月13日 (金)	有明中学校 個別ケースカンファレンス	学校4名 SSW 本所1名 計3名
6月25日 (水)	海陽中学校 個別ケースカンファレンス	学校3名 本所2名 計5名
7月11日 (金)	海陽中学校 個別ケースカンファレンス	学校3名 福祉課 児相 本所2名 計7名
7月17日 (木)	海陽中学校 個別ケース検討会議	保護者2名 学校3名 本所2名 計7名
7月28日 (月)	海陽中学校 個別ケース検討会議	学校2名 S C 本所2名 計4名
9月4日 (木)	万田小学校 個別ケースカンファレンス	学校3名 福祉課 児相 本所2名 計7名
1月9日 (金)	万田小学校 個別ケース検討会議	保護者1名 学校4名 本所2名 計7名
7月28日 (月)	万田小学校 個別ケースカンファレンス	学校4名 福祉課2名 本所1名 計7名
8月27日 (水)	万田小学校 個別ケースカンファレンス	学校3名 福祉課2名 病院1名 本所2名 計8名
10月2日 (木)	睦合小学校 個別ケース検討会議	保護者1名 学校5名 本所2名 計8名
12月22日 (月)	睦合小学校 個別ケース検討会議	保護者1名 学校6名 本所2名 計9名
8月5日 (火)	南関第三小学校 個別ケース検討会議	保護者1名 学校1名 本所2名 計4名
12月19日 (金)	玉名市教育事務所個別ケースカンファレンス	職員1名 本所1名 計2名
8月19日 (火)	玉名市教育事務所 個別ケース検討会議	保護者1名 教委2名 本所1名 計4名
8月21日 (木)	荒・清里小学校 個別ケース検討会議	保護者1名 学校3名 本所2名 計6名
1月19日 (月)	荒・清里小学校個別ケースカンファレンス	学校3名 本所2名 計5名
9月26日 (金)	荒尾中央小学校個別ケースカンファレンス	学校1名 学童 本所1名 計3名
3月10日 (火)	荒尾中央小学校 個別ケース検討会議	保護者1名 学校2名 本所1名 計4名
11月20日 (木)	腹赤小学校 個別ケースカンファレンス	学校3名 本所2名 計5名
2月20日 (金)	鍋小学校 個別ケース検討会議	保護者1名 学校2名 計3名
11月25日 (火)	要保護対策協議会個別ケースカンファレンス	児相 精神保健センター 学校2名 病院1名 支援事業所1名 福祉課3名 本所1名 計10名

(4) その他

日 程	事業名、内容等	出席者（人数）
5月26日（月）	熊本県要保護児童対策地域協議会	計30名
5月27日（火）	措置入所児童関係者連絡協議会	計20名
7月7日（月）	全九州児童家庭支援センターブロック会議	計10名
7月11日（金）	児童養護施設等心理担当職員・児童心理司連絡会	計15名
2月13日（金）	児童養護施設等心理担当職員・児童心理司連絡会	計15名
9月7日（日）	鹿児島県助産師会公開講座	計20名
11月19日（水）	子どもの虐待防止を考えるシンポジウム	計30名
2月10日（火）	荒尾第三中学校 ケース支援会議	計8名
2月15日（日）	RIFCR研修	計30名

2. 心理部門 事業報告

(1) 目標

- ①クライアントの心理面の安定を図る。
- ②関係機関との連携を行い、地域支援体制を作る。
- ③スタッフ間の連携を強化し、ケースの理解を深める。
- ④アセスメントの強化

(2) 事業報告

①電話相談

必要最小限の情報を聞きだし、適切な助言や他機関との紹介等を行った。紹介先が限られているため、様々なクライアントに対応できるように新たな紹介先を探すことが課題である。

②来所相談

クライアントの家族歴、生育歴、生活歴を考慮に入れながら、心理的問題についての総合的な査定を行い、方針を立てることができた。中期～長期的目標である新しい検査用具の購入は、困難であったため、引き続き検討していくこととする。

個人心理療法は、障がいケースでのソーシャルスキルトレーニングのニーズが高く、増え続けている状況である。ある程度の能力が獲得できたところで終結としたが、保護者にスキルを伝えきれていないため、今後は保護者にもスキルを伝えていくことが課題である。

集団心理面接では、それぞれのペースで課題を乗り越え、面接場面だけでなく生活場面においても能力を生かすことができるようになってきており、効果的に支援ができたと思われる。

③訪問相談

来所することが困難であり、社会から孤立しつつあるクライアントに対して、スクールソーシャルワーカーと連携し、訪問面接を実施することにより、来所につなぐことができた。

④児童相談所、医療機関、学校等の他機関との連携

必要に応じて他機関に情報提供を行うことができた。頻度は少ないため、支援を充実させるために積極的に連携をとるよう改善していきたい。

⑤受理会議・援助方針会議への参加

スタッフ間の調整が難しく、会議の開催が少なかったため、援助方針会議にかけるケースが少なかったことが課題である。ただし、朝礼などで簡易の話し合いを行うことである程度はスタッフ間での共有を図れた。